資料２－１

2025（令和 7）年度(確定版) 第２期知床半島ヒグマ管理計画目標に関する状況

○第２期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況（赤字は前回 WG からの変更箇所）

本計画の目標	目標値	第 2 期計画　実績値						達成状況	関連する主な方策
		2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)		
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を 108 頭以下とする。（注４、５）	18 頭以下（単年目安）	16 頭	116 頭	9 頭	53 頭			未達成（確定）	No. 1 誘引物の除去、No. 3 侵入防止用電気柵の設置･管理、No. 4 住宅地周辺の草刈り、No5 出没状況の把握、No. 7 非致死的追い払い、No. 8 捕獲
	108 頭以下（累計）		計 132 頭	計 141 頭	計 194 頭				
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。（注６）	0 件	0 件	1 件（注 6）	1 件（注 6）	1 件			未達成（確定）	No. 1 誘引物の除去、No. 3 侵入防止用電気柵の整備、No. 4 住宅地周辺の草刈り、No. 8 捕獲、No. 24 情報提供・注意喚起、No. 25 利用自粛要請、No. 26 施設閉鎖、No27. 緊急時の避難誘導
	（累計）		計 1 件	計 2 件	計 3 件				
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状（第１期計画期間の年平均値。以下同じ。）以下に抑制する。（注７）	19 件以下（単年目安）	29 件	37 件	73 件	26 件			未達成（確定）	No. 17 普及啓発、No. 19 利用者側の問題行動に対する指導、No. 20 アクセスコントロール
	114 件以下（累計）		計 66 件	計 139 件	計 165 件				
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	11 件以下（単年目安）	6 件	12 件	1 件	3 件				No. 11 ゴミや食料の管理に関する指導、No. 3 侵入防止用電気柵の普及･設置促進、No. 38 町広報誌・メール等による注意喚起
	66 件以下（累計）		計 18 件	計 19 件	計 22 件				
⑤市街地（ゾーン４）への出没件数を現状以下に抑制する。	95 件以下（単年目安）	76 件	399 件	76 件	134 件			未達成（確定）	No. 1 誘引物の除去、No. 3 侵入防止用電気柵の設置･管理、No. 4 住宅地周辺の草刈り、No. 7 非致死的追い払い、No. 8 捕獲
	570 件以下（累計）		計 475 件	計 551 件	計 685 件				
⑥斜里町における農業被害面積を現状から５％削減する。（注８、９）	536a 以下（6 年平均）	510a	752a	203a	455a				No. 34 農地への電気柵普及･設置促進、No. 29 地元猟友会･地域住民との情報交換、No. 8 捕獲
⑦漁業活動に関係する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	2～3 件以下（単年目安）	0 件	7 件	0 件	0 件				No. 34 番屋への電気柵普及･設置促進、No. 7 非致死的追い払い、No. 8 捕獲
	16 件以下（累計）		計 7 件	計 7 件	計 7 件				
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識､ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や利用者に現状以上に浸透させる。	－	－	－	－					No35・36 地域住民や利用者への普及啓発

（注４）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。
（注５）本計画で定めたメスヒグマの人為的な死亡総数の目安は、北海道ヒグマ管理計画において定められている、道東・宗谷地域東部（阿寒白糠以東）の「計画期間総メス捕獲上限数」に含まれる。
（注６）危険な場面に立ち会うことの多い捕獲従事者は、地域住民や利用者とは性質が異なるため、ヒグマ捕獲従事者の人身事故は別途集計を行う。なお、2023 年の１件は目標の人身事故発生件数に含めるが、シカ捕獲作業中のハンターが襲われた事例である。
（注７）「９．管理の方策」において問題行動と位置付ける行為。
（注８）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画の目標（令和５年度に令和２年度比 5%削減）を参照したもの。
（注９）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っておらず、鳥獣被害防止計画においても農業被害に関する目標を明確に設定していない。
したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

知床半島ヒグマ管理計画目標である①～⑧のうち、数値目標が設定されていない⑧以外について、2025（令和 7）年度の状況を以下に記した。

目標①　計画期間内における、斜里町、羅臼町および標津町でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を 108 頭以下とする。

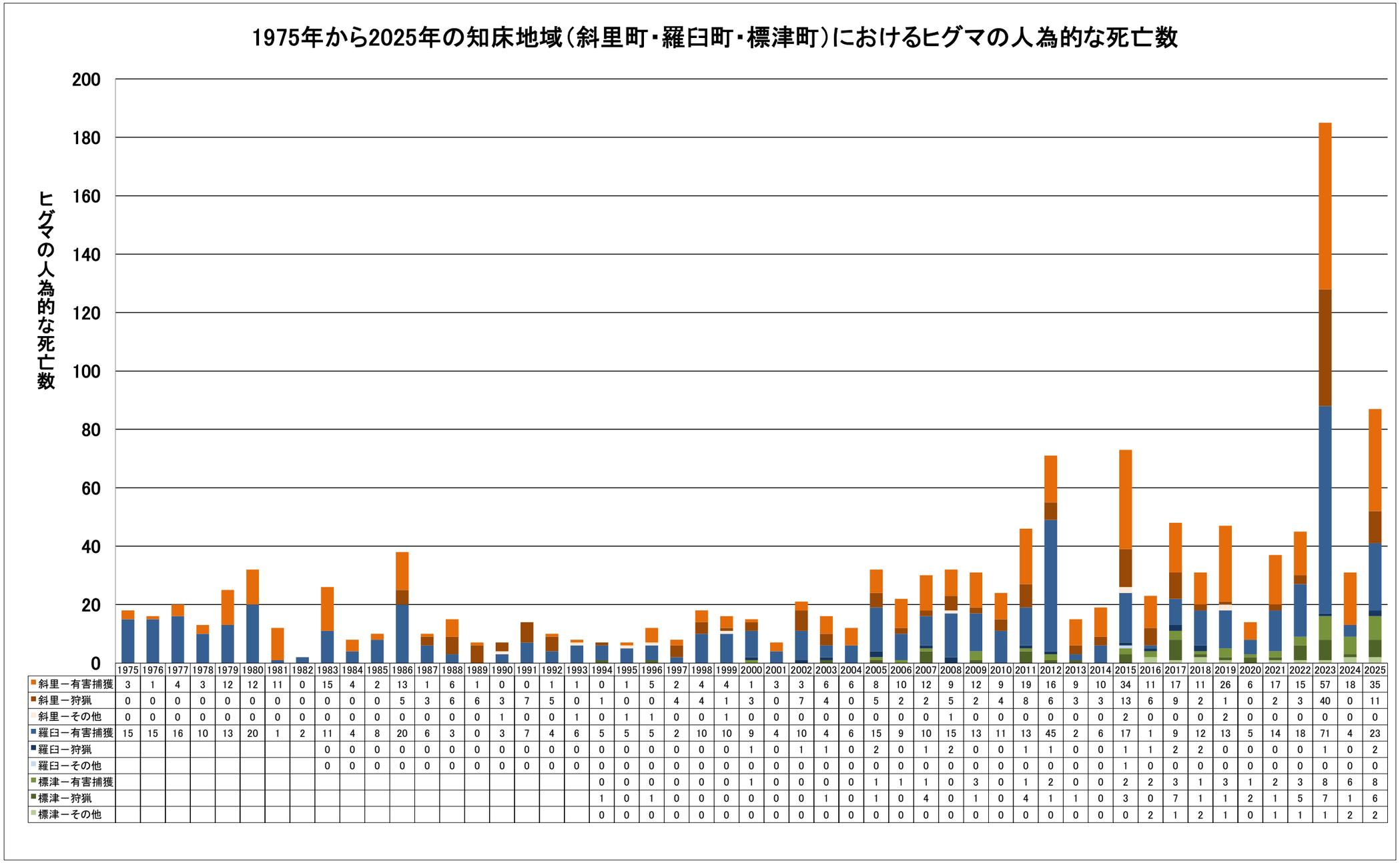
・2025 年度のヒグマ人為的死亡数は 88 頭であり、過去２番目に多い死亡数となった。死亡数の内訳は、メスが 53 頭（斜里町 32 頭、羅臼町 13 頭、標津町 8 頭)、オスが 35 頭（斜里町 15 頭、羅臼町 12 頭、標津町 8 頭）であった（表 1)。

・第 2 期計画が開始した 2022 年からのメスヒグマの人為的死亡数の累計は、**194 頭**となった。

・1975 年から 2025 年におけるヒグマの人為的死亡数を図 1 に示した。

表１．ヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0 歳	7	5	1	2	8	0
1 歳	2	1	1	4	0	1
2 歳	1	1	0	3	0	0
3 歳以上	22	6	6	6	4	7
小計	32	13	8	15	12	8
合計	53			35		



	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
斜里－有害捕獲	3	1	4	3	12	12	11	0	15	4	2	13	1	6	1	0	0	1	1	0	1	5	2	4	4	1	3	3	6	6	8	10	12	9	12	9	19	16	9	10	34	11	17	11	26	6	17	15	57	18	35
斜里－狩猟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	6	6	3	7	5	0	1	0	0	4	4	1	3	0	7	4	0	5	2	2	5	2	4	8	6	3	3	13	6	9	2	1	0	2	3	40	0	11
斜里－その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
羅臼－有害捕獲	15	15	16	10	13	20	1	2	11	4	8	20	6	3	0	3	7	4	6	5	5	5	2	10	10	9	4	10	4	6	15	9	10	15	13	11	13	45	2	6	17	1	9	12	13	5	14	18	71	4	23
羅臼－狩猟									0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	2	0	1	2	0	0	1	1	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	1	0	2
羅臼－その他									0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
標津－有害捕獲																				0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	3	0	1	2	0	0	2	2	3	1	3	1	2	3	8	6	8
標津－狩猟																				1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4	0	1	0	4	1	1	0	3	0	7	1	1	2	1	5	7	1	6
標津－その他																				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	0	1	1	1	2	2

図１．昭和 50(1975)年から令和 7(2025)年の知床地域におけるヒグマの人為的な死亡数

・昭和 50-59(1975-1984)の羅臼町の数字については知床の哺乳類に掲載の図から読み取って記入。
・昭和 61(1986)年以前の狩猟による捕獲数はデータなし。
・標津町については平成 29(2017)年から記載。その他の空白セルはデータなし。
・1-12 月に捕獲された個体をその年の捕獲として集計。
・「その他」の分類には、人材育成捕獲や事故死等を含む（自然死亡は含まない）。

目標②　計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。

・2025 年度はヒグマによる人身事故が斜里町で 1 件発生した。

・8 月 14 日に羅臼岳登山道（岩尾別コース）の 560m 岩峰付近において、下山中の登山グループ（2 名パーティ）のうち 1 名がヒグマに襲われ死亡する事故が発生した。翌日の捜索活動において、登山道近傍の林内で被害者に接触している 0 歳 2 頭連れ親子のヒグマが発見され、その場で有害捕獲された。被害者の遺留品等に付着したヒグマの体毛及び唾液から検出された DNA と、捕獲個体の DNA が一致した。DNA 解析により、捕獲個体は 2014 年から主に岩尾別地区で活動していた満 11 歳のメスのヒグマ（個体識別コード「SH」）であることが判明した。

・第 1 期計画以降(2017-)、ヒグマによる人身事故が計 5 件発生している（表 2)。

表２. ヒグマによる人身事故の発生件数（2017-2025 年度）

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
斜里町	1※1	0	1※1	0	0	0	0	1※1	1
羅臼町	0	0	0	0	0	0	1※2	0	0
標津町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	1	0	0	0	1	1	1

※1. ヒグマ捕獲従事者がヒグマに襲われた事例

※2. エゾシカ捕獲従事者がヒグマに襲われた事例

目標③　利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 114 件）に抑制する。

・2025 年度は利用者の問題行動に起因する危険事例が計 26 件（うち斜里町 24 件、羅臼町 2 件）発生した（表 3、図 2)。

・例年同様に、サケやマスを採食するためヒグマが頻繁に出没する 9～11 月にかけて、岩尾別川周辺で危険事例が多く発生した。

・第 1 期計画以降(2017-)の危険事例の発生状況を表 4 に示した。

表３．2025 年度に発生した利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細（一部抜粋）

No.	日付・町	状況概要
1	7 月 29 日 斜里町	岩尾別地区の道路上にて、親子のヒグマが出没し付近で 10 台程度の交通渋滞が発生。うち 1 台の車両からヒグマに向かってスナック菓子のようなものが投げ込まれたとのこと。
2	8 月 9 日 羅臼町	知床横断道の道路上にて、道路脇を歩くヒグマの親子の近くを徐行で通過する一般車両 1 台が確認された。
3	10 月 3 日 斜里町	日の出地区オライネコタン川にて、釣り人 1 名が釣ったサケをヒグマに持ち去られた。当事案を受け河口付近へは立入自粛の対応がとられた。
4	10 月 4 日 斜里町	利用者 1 名が岩尾別ふ化場の敷地内に入り込み、ヒグマまで 20m 程度の距離まで接近。ヒグマが近づいて来たため驚いて転び軽傷を負った。
5	10 月 18 日 斜里町	岩尾別温泉道路にて、カメラマン３名が降車して約 10m の距離から木に登るクマを撮影していた。
6	10 月 23 日 斜里町	岩尾別地区の道路上にて 0 歳 1 頭連れ親子ヒグマの付近約 20m の距離で降車している利用者 2 名が確認された。利用者は対策車両に気付き直ぐに車内へ戻ったが、その場に留まるような様子だった。
7	10 月 24 日 斜里町	岩尾別川に単独メス成獣サイズのヒグマが出没。停車 13 台、降車 20 名の大渋滞が発生した。ヒグマとの距離は約 3m であり、非常に危険であるため、注意喚起を行った。

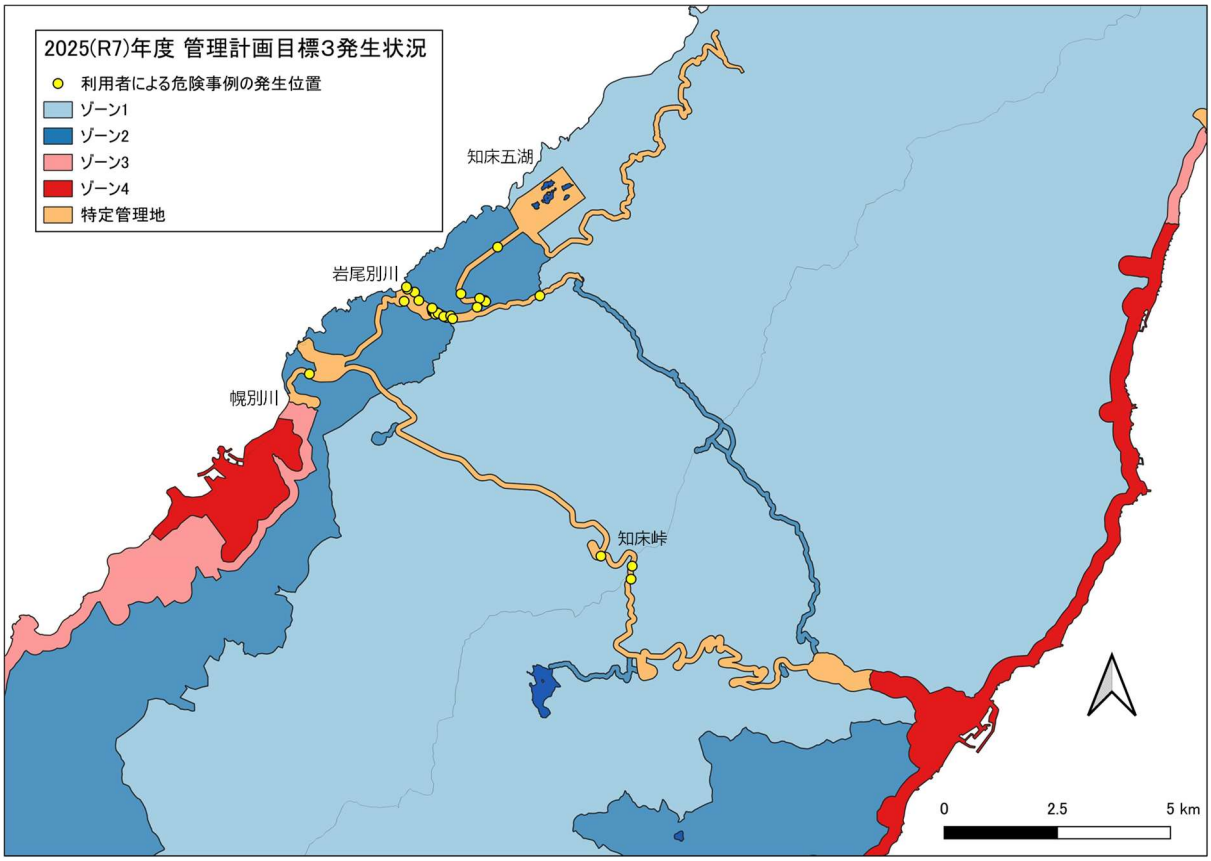


図２． 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

表４. 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数（2017–2025 年度）

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
斜里町	4	8	17	14	49	27	36	73	24
羅臼町	0	2	0	2	0	2	1	0	2
標津町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	10	17	16	49	29	37	73	26

目標④　地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 66 件）に抑制する。

・2025 年度は地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例が羅臼町で 3 件発生した（表 5）。斜里町および標津町では発生しなかった。

・第 1 期計画以降(2017-)の危険事例の発生状況を表 6 に示した。

表５．2025 年に発生した地域住民・事業者の問題行動に起因する危険事例

No.	日付・町	状況概要
1	9 月 13 日 羅臼町	冷凍してあった残滓（翌日に破棄予定）を夜間に出しておいたため、ヒグマに漁られた（水産加工業者）。
2	9 月 15 日 羅臼町	残滓を入れていたボックスにバケットを乗せていたが、ヒグマに落とされ荒らされた。残滓等は入れていなかったため被食は受けなかった（水産加工業者）。
3	11 月 5 日 羅臼町	残滓を入れていた箱にバケットを乗せていたが、ヒグマに落とされ中に入れておいたタコを漁られた（水産加工業者）。

表６．地域住民・事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数（2017-2025 年度）

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
斜里町	3	3	0	3	1	6	0	1	0
羅臼町	7	9	9	2	19	0	12	0	3
標津町	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	10	13	9	5	20	6	12	1	3

目標⑤　市街地（ゾーン 4）への出没件数を現状以下（累計 570 件）に抑制する。

・2025 年度の市街地（ゾーン 4）へのヒグマの出没件数は 134 件（斜里町 23 件、羅臼町 102 件、標津町 9 件）であった（図 3）。

・第 1 期計画以降(2017-)の市街地（ゾーン 4）におけるヒグマ出没件数の推移を図 4 に示した。

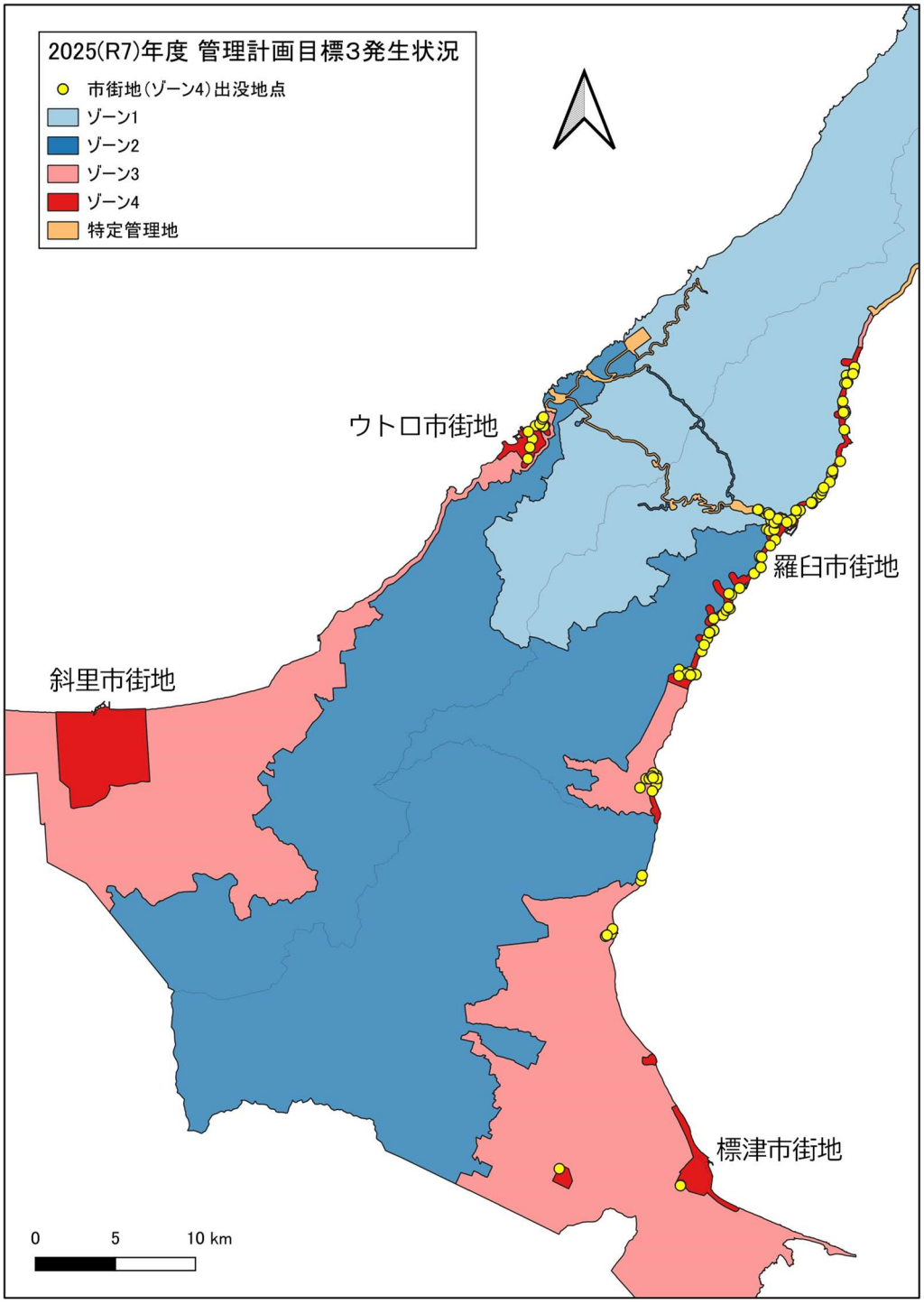


図３．市街地（ゾーン 4）でのヒグマ出没位置

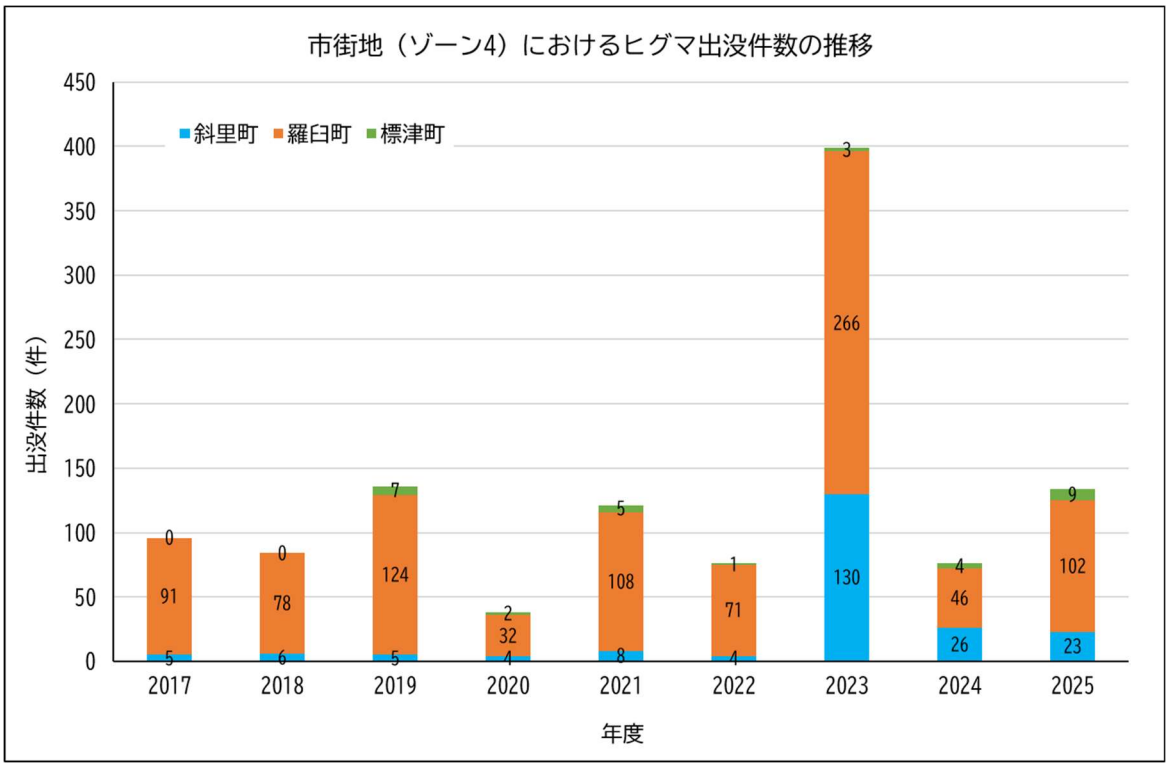


図４．市街地（ゾーン 4）におけるヒグマ出没件数の推移（2017–2025 年度）

目標⑥　斜里町における被害面積を現状（536a（6 年平均））から 5%削減する。

・2025 年度における斜里町のヒグマ農業被害面積は 455a であった。

・これまでの状況として、斜里町におけるヒグマ農業被害面積は年によってばらつきがあるものの、2013 年度以降は約 350～850a 前後で推移している（図 5）。

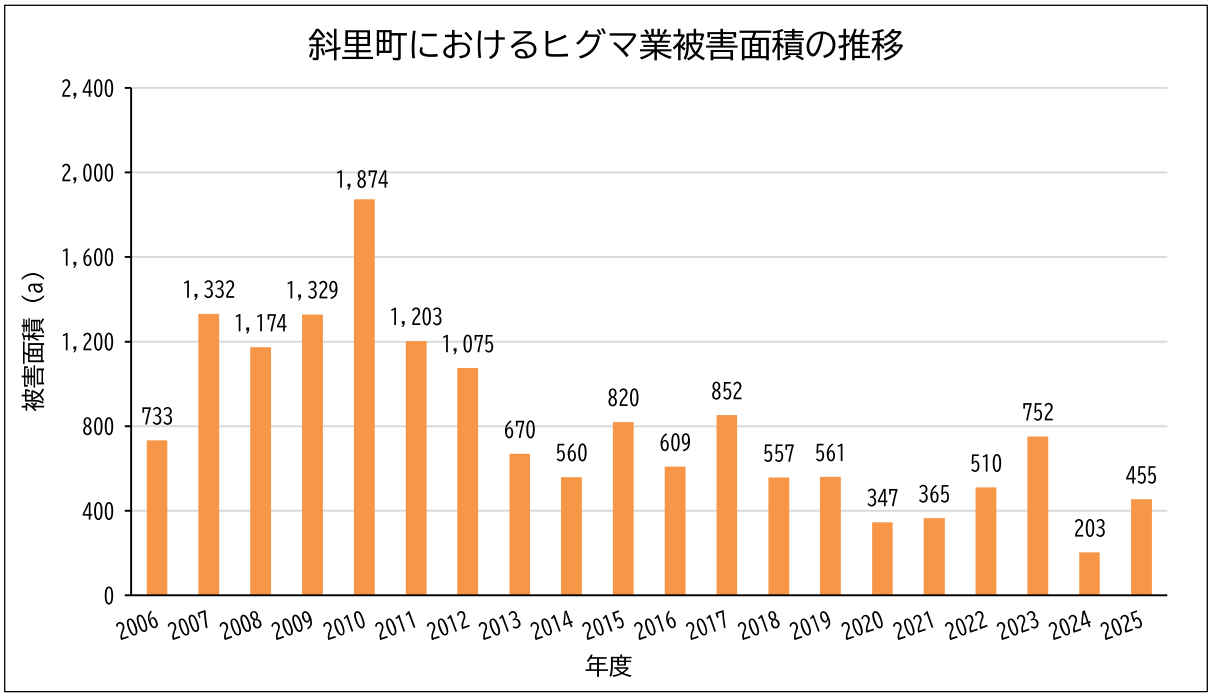


図５．斜里町におけるヒグマの農業被害面積の年次推移（2006-2025 年度）

目標⑦　漁業活動に関係する危険事例の発生件数を現状以下（16 件）に抑制する。

・2025 年度における漁業活動に起因する危険事例は 0 件であった。
・第 1 期計画以降(2017-)の漁業活動に起因する危険事例の発生状況を表 7 に示した。

表 7 . 漁業活動に関係する危険事例の発生件数（2017-2025 年度）

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
斜里町	2	0	1	5	0	0	0	0	0
羅臼町	1	3	0	0	0	0	7	0	0
標津町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	1	5	0	0	7	0	0

その他　ヒグマに関する危険事例の発生状況

・2025 年度はヒグマに関連する危険事例が計 32 件発生し、内訳はヒグマの問題行動に起因する危険事例が 6 件、危険な遭遇等事例が 26 件であった（表 8, 9、図 6, 7）。

表８．ヒグマの問題行動に起因する危険事例の発生状況

No.	日付	場所	発生状況
1	5月5日	羅臼町	羅臼岳をスキーで下っていた利用者がヒグマに追いかけられた。
2	9月12日	羅臼町	住宅付近の倉庫の引き戸が倒され窓ガラスが割れていた。残滓等は都度片づけていたため、ヒグマに荒らされた形跡はなかった。
3	8月2日	斜里町	登山者が約10mでヒグマと遭遇し、ヒグマが登山者に近付いてきたため、約2～3mの距離でクマスプレーを噴射した。
4	8月12日	斜里町	登山者が約5mでヒグマと遭遇し、ヒグマが登山者に近付いてきたため、約3mの距離でクマスプレーを噴射した。ヒグマは約5分間つきまといを行った。
5	10月16日	斜里町	親子グマが道路上を移動し、車両に手を掛けた。
6	10月28日	斜里町	個体識別のため撮影を行っていた対策員に向かって、約30mの距離からヒグマが威嚇突進や唸るといった威嚇行動を複数回行った。

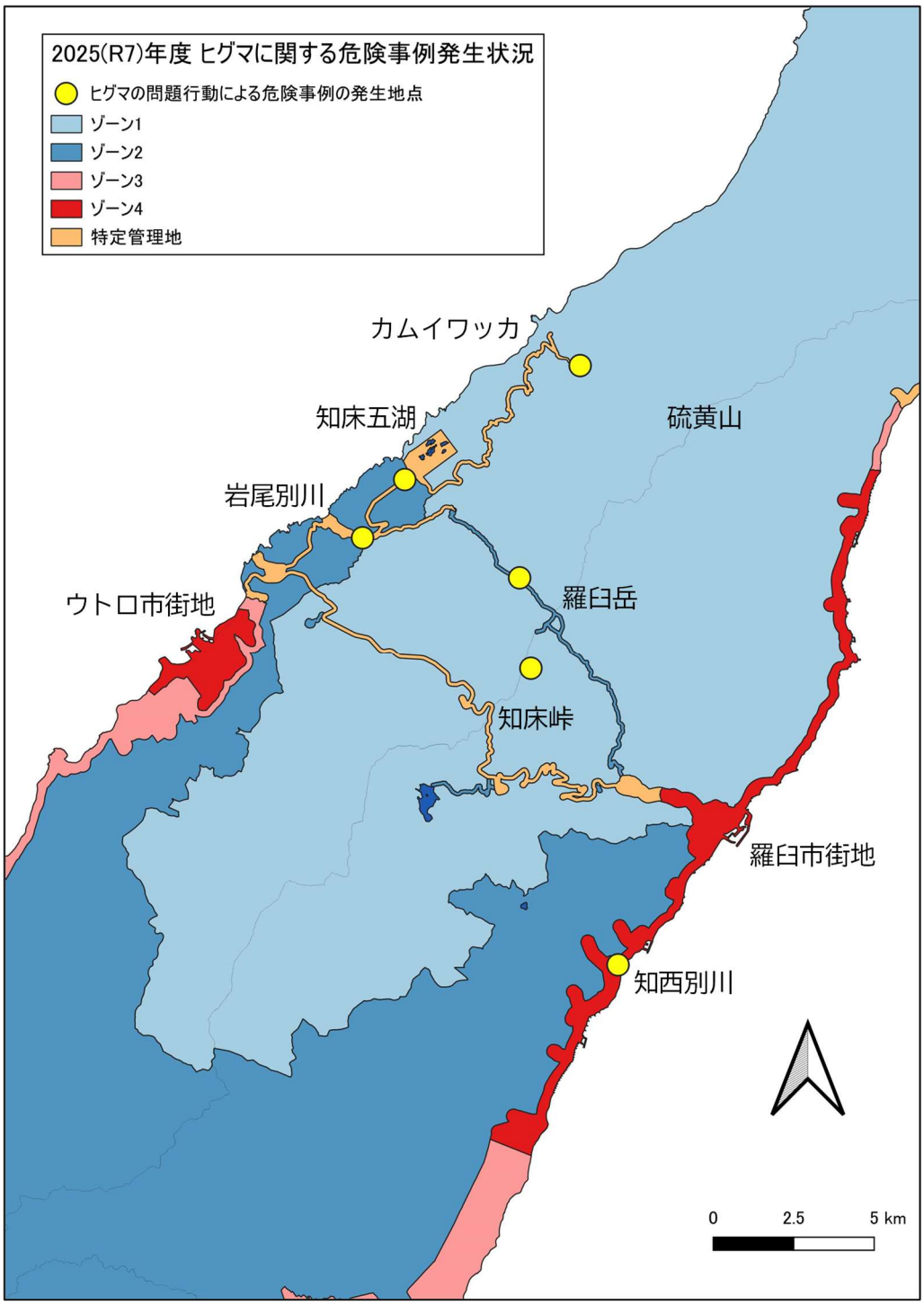


図６．ヒグマの問題行動に起因する危険事例の発生位置

表９．ヒグマとの危険な遭遇等事例の発生状況

No.	日付	場所	発生状況
1	7月27日	羅臼町	道路上でヒグマがシカを捕食し付近で採食していた。近くで停車する車両や降車し撮影する人で交通渋滞が発生した。
2	5月15日	斜里町	下山していた利用者が近距離でヒグマと遭遇した。ヒグマは遭遇時に藪の中へ飛び込み唸ってきた。
3	5月15日	斜里町	道路上を歩いていたヒグマが車両から約2mの距離まで接近した。
4	5月16日	斜里町	道路上を歩いていたヒグマが車両から約1mの距離まで接近した。
5	5月29日	斜里町	建物の付近にある下水管の蓋をヒグマに触られる事案が複数件発生した。
6	6月25日	斜里町	親子グマが道路上を歩いており、付近にいたバイクがヒグマと向かい合う形で約1mの至近距離で遭遇した。
7	7月6日	斜里町	ヒグマが車両の匂いを嗅ぐような様子で運転席の前まで近づいてきた。
8	8月9日	斜里町	道路を横断したシカをヒグマが追いかけており、車両と衝突しそうになった。
9	8月10日	斜里町	下山中の登山者が登山道を登ってくる親子グマと遭遇した。ヒグマは登山者を気にしない様子で約3mの距離まで登山道上を登ってきたため、登山者はクマスプレーを構えた状態で退避した。
10	8月13日	斜里町	ヒグマが工事現場のプレハブ小屋の中を覗き込んでいた。
11	8月21日	斜里町	道路上を移動する親子グマを追い抜いた車両を追いかけた。
12	8月23日	斜里町	道路上を移動する親子グマが通行車両に威嚇行動をとった。
13	8月26日	斜里町	道路上を移動する親子グマが通行車両に約1mの距離まで接近した。
14	8月26日	斜里町	ヒグマと通行車両が衝突する事故が発生した。ヒグマはその後逃走した。
16	9月1日	斜里町	道路上を移動する親子グマが通行車両に約2mの距離まで接近した。
17	9月10日	斜里町	道路上を移動する親子グマが通行車両に約2mの距離まで接近した。
18	9月17日	斜里町	駐車場付近でヒグマが長時間唸り声をあげていた。
19	9月22日	斜里町	道路上を長時間移動する親子グマに対し複数回追い払いを行ったが再出没を繰り返した。
20	9月25日	斜里町	市街地（ゾーン4）の防波堤にいた複数の釣り人の付近をヒグマが歩いていた。
21	9月29日	斜里町	道路上を長時間移動する親子グマにより20台以上の車両が絡む交通渋滞が発生した。
22	10月16日	斜里町	道路上を長時間移動する親子グマが、追い払いを行う対策車両に複数回威嚇突進を行った。
23	10月27日	斜里町	道路上を長時間移動する親子グマにより10台以上の車両が絡む交通渋滞が発生した。
24	10月27日	斜里町	道路上を長時間移動する親子グマにより10台以上の車両が絡む交通渋滞が発生した。
25	11月2日	斜里町	ヒグマが油の入ったボトルを咥えた状態で市街地（ゾーン4）に出没した。
26	11月20日	斜里町	番屋倉庫に仔グマが侵入した。荒らされた形跡は確認されなかった。

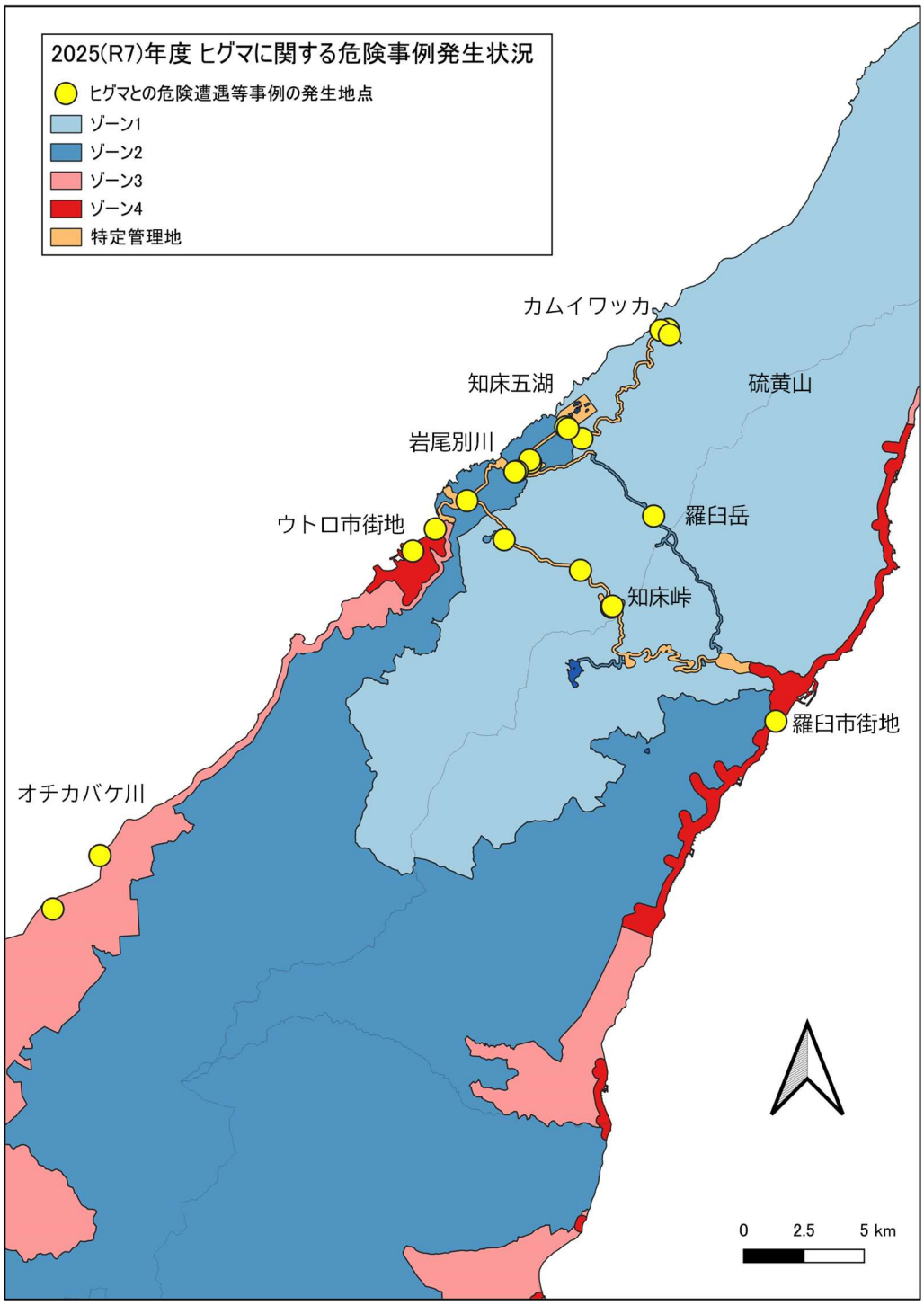


図７．ヒグマとの危険遭遇等事例の発生位置

＜参考＞第１期知床半島ヒグマ管理計画　目標の達成状況（5 年間）

○第１期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況

本計画の目標	目標値	結果						目標達成状況	主な対策 ※方策No. の後の「○△×」等については各方策の実施状況を知床ヒグマ対策連絡会議で評価したもの
		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)		
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。（注４）	**75頭**	10頭	21頭	15頭	14頭	3頭	11頭	達成	【平時】　誘引物の除去、侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○),6(○),32(○/△/○),35(○/△),37(△/△/○)】 【出没時】威嚇追い払い 【方策7(△)】
	（累計）		**21頭(28%)**	**36頭(48%)**	**50頭(67%)**	**53頭(71%)**	**64頭(85%)**		
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。	**0件**	0件	1件 (注8)	0件	1件 (注8)	0件	0件	未達成	【平時】　侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○),6(○),32(○/△/○),35(○/△),37(△/△/○)】 【出没時】出没情報の提供、問題個体の捕獲 【方策1(○),8(△)】
	（累計）			**1件**	**2件**	**2件**	**2件**		
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	**12件**	13件	4件	10件	17件	16件	49件	未達成	【平時】　利用者への普及啓発 【方策9(△),10(○),14(○),23(○),24(△),S19(△)】 【出没時】ー
	（累計）			**14件**	**31件**	**47件**	**96件**		
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	**10件**	1件	10件	13件	9件	5件	20件	未達成	【平時】　地域住民への普及啓発（情報交換会、学校での普及啓発等） 【方策2(○),6(○),32(○/△/○),35(○/△),37(△/△/○)】 【出没時】ー
	（累計）			**23件**	**32件**	**37件**	**57件**		
⑤市街地（ゾーン４）への出没件数を半減させる。	**210件**	60件	96件	84件	136件	38件	121件	未達成	【平時】　侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り、誘引物の除去 【方策2(○),6(○),32(○/△/○),35(○/△),37(△/△/○)】 【出没時】威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△),8(△)】
	（累計）			**180件**	**316件**	**354件**	**475件**		
⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を３割削減する。（注５、６）	**4,652千円 523ａ** （５年平均）	5,524千円 609ａ	8,727千円 852a	5,180千円 557ａ	6,127千円 561a	3,533千円 347a	4,641千円 365a (5,642千円、 536a)	未達成	【平時】　電気柵の整備、農業者向け普及啓発 【方策6(○),32(○/△/○)】 【出没時】問題個体の捕獲 【方策8(△)】
⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関係する危険事例の発生件数を半減させる。	**2件**	0件	3件	4件	1件	5件	0件	未達成	【平時】　漁業者向け普及啓発 【方策32(○/△/○)】 【出没時】威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△),8(△)】
	（累計）			**7件**	**8件**	**13件**	**13件**		
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。	－	－	－	－	－	－	－	－	【平時】　普及啓発 【方策9(△),12○),14(○),23(○),32(○/△/○),S19(△)】 【出没時】ー

（注４）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。
（注５）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画（H27-29)より引用したもの。なおH30-R2以降の防止計画では目標を3割から1割減に下方修正している。
（注６）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。
したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。
（注７）③～⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。
（注８）ハンターによる人身事故。
（注９）令和3年度の農業被害額及び被害面積は、令和4年3月上旬頃に集計結果が出る予定。